ニュースレター　あるがまま　№8

高良武久・森田療法関連資料保存会　　２００５年３月３１日

興生院の一日

丸山　　晋（淑徳大学教授）

朝６時半、ピンポーンポーンのチャイムとともに興生院の一日が始まります。

ラジオ体操の後、掃除班は、中庭、作業棟、集会所、食堂、診察室の掃除に、食堂当番は調理の手伝いや配膳におもむきます。臥褥の人にも配膳があります。

朝食にはみなの顔が揃います。隣の小さな部屋では高良先生が食事をしています。食事の後は、作業主任の丸山さんの指示で、さまざまな作業が展開されます。臥褥から起き立ての人は庭の散歩や観察が仕事です。先輩格は花壇の手入れ、ゴミの整理、近所の木工所への木屑の運搬（風呂の燃料用）などなど臨機応変に担当させられます。

９時ごろ阿部先生がやってきます。週２回ですが、丸山もやってきます。外来には、三々五々通院患者さんが見えます。その中には数人の初診の人も混じっています。ドクターは、外来患者さんを診ながら、日記にコメントを入れたり、病室に行き臥褥者と簡単な会話を交わしたり、庭や作業所での入院者の行動に目を配ったり、質問に答えたりして回ります。診察室では個人的に面接を行ったりします。

そうこうするうちに昼食のチャイムが鳴ります。食堂はまた賑わいを見せます。阿部先生と丸山は高良先生とお昼をご一緒します。食後また作業の時間が続きます。

３時半、チャイムが鳴ります。木曜日は高良先生の、水曜日は阿部先生の講話の時間です。高良先生の講話は、対人恐怖の心理やあるがままなどという、即興のテーマで話されます。日記の中から題材が選ばれる事もあります。阿部先生の場合は、新しく起きた人の紹介があったり、フリーなディスカッション風な場合が多いのですが、退院が近い患者さんが退院記を発表することもありました。その後は、木彫や工作をする人、卓球やガーデン・ゴルフを楽しむ人など、それぞれの過ごし方があります。

そして５時半ともなると楽しみな夕食です。夕食後は、入浴や集会室での娯楽時間が待っています。自分達の手で作った歌集で歌を歌ったり、時には百人一首を拾う事もありました。９時ごろには、各自の部屋に引き上げ日記をまとめます。そして消灯。

こうした日々が、営々と続いたのでした。

春の特別企画

野村章恒先生と竹山恒寿先生と森田療法

―高良武久先生を支えた人たち―

２００５年5月１４日（土）１４：００～１６：００

於：就労センター「街」（元高良興生院跡）３F　参加費：１０００円

野村章恒先生について　林　信 人先生（青木病院）

竹山恒寿先生について　高 橋 義 人先生（元湘南病院院長）

座談会　野村先生と竹山先生に教わったこと

司会　近 藤 喬 一先生（光洋クリニック）

佐々木三男先生（太田睡眠科学センター所長）

増 野　肇先生（ルーテル学院大学教授）

清 水　信先生（常盤台病院院長）

丸 山　晋先生（淑徳大学教授）

今回は、高良武久先生時代の教授であり、森田正馬評伝を書かれた野村章恒教授と、精神鑑定や催眠療法で知られている竹山恒寿教授を取り上げ、お二人が、森田療法の発展にどのように関わっておられたかをテーマとして、関係のある方にお話しをうかがうことにしました。野村先生は、森田評伝を記されていますし、ご自宅で森田療法の実践を長年行われ、「杜の会」という、グループも育てておられます。一方、竹山先生は、多くの鑑定書を書かれ、また、催眠療法の大家として知られていますが、森田療法に関する論文はあまり書かれていません。しかし、森田先生のところで学んだ体験を、いろいろと医局でお話しをしたことが、多くの医局員の森田先生イメージを作り上げるのに役立っています。

この機会に、お二人の業績を皆で考えてみたいと思いますので、お二人を知らない方も森田療法を理解するために、ぜひご参加下さい。

会員の皆様へ

一昨年の企画をパンフレットにしたのに引続いて、昨年の、「森田正馬先生と高良武久先生」も、現在、小冊子にする作業が続けられています。夏までにはお届けできると思います。

今回は、高良武久先生時代の慈恵精神科を支えていた、野村章恒教授、竹山恒寿教授を取り上げました。本会の目的は、過去の貴重な資料を保存することですが、思い出も、時代とともに薄れていきます。まだ、ご存知の先生方がお元気なうちに、その当時の記録を残して、これも小冊子にまとめる予定でいます。

図書の方では、森田先生時代の「変態心理」の復刻版を揃えました。森田先生の日記なども揃えるつもりでいます。

本会も５年目を迎えました。今後の在り方について検討中ですが、ご意見があればお寄せ下さい。